



■最近の話題

青森県ため池の安全・安心力アップ中期プランの策定

青森県では、平成30年3月、学識経験者やため池管理者、市町村担当者の協力を得て、ため池安全・安心力を高める実行計画として「青森県ため池の安全・安心力アップ中期プラン」を策定しました。

本プランでは、「決壊時の被害」、「堤体の劣化状況」、「堤体の強度」の3つの要素から総合的に評価し、ため池の防災・減災対策の優先度を数値化しています。

今後は、徹底した管理や点検、ハザードマップの周知などのソフト対策をため池の防災・減災対策の中心としつつ、優先度に基づき、必要なため池のハード対策を進めていくこととしています。

本プランのデータは、農村整備課 HP で紹介しています。

【http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/tameike_chukuplan.html】



奥内地区と蓬田村の取組を優良事例として紹介

平成30年6月1日、中山間地の農業活性化に向けた施策を検討する自民党「中山間地農業を元気にする委員会」が開催され、青森市奥内地区と蓬田村の取組が優良事例として紹介されました。

両地区とも中山間地域ルネッサンス事業を活用し、収益性が高く、通年で需要があるたまねぎの導入に取り組んでおり、先進地研修や県内での研修会を開催するとともに、新規たまねぎ作付地における有効な雑草軽減対策の実証試験などを実施しました。

また、蓬田村では、これまで廃棄物として処理していた養殖ホタテの残渣に、村内で発生する鶏糞、もみ殻を加えた堆肥を作り、主力農産物であるトマトや産地化を目指しているたまねぎに活用するなど、バイオマス資源を村内の一次産業の活性化につなげる資源循環型の農業に取り組んでいます。

この委員会で紹介された事例は、政府への提言へ反映されることとなっています。

中山間地農業を元気にする委員会



たまねぎ収穫体験



先進地研修



播種の様子（直播）



■「環境公共」事例紹介

山川海をつなぐ水循環体験学習が開催されました（三八地域県民局地域農林水産部）

県民の皆様へ水循環という観点から環境公共を知ってもらうために、平成30年7月1日（日）、八戸市内の山から海までを巡る、バスツアーを開催しました。

1 山から川へ

まずは、世増ダムへ向かいます。ここでは、ダムによってたくわえられた水が、農業用水や水道に利用していること、水害の抑止力となっていることを学びました。



その後、かんがい用配水槽に行き、山から川（里）へ流れ着く水について学習しました。

2 海へ到着

山、川を流れ水は海へとつながります。山からたくさんの栄養分を含んだ水が流れ着く海では、昆布や海苔といった海藻が育ち、その海藻等を食べて魚は育ちます。



漁業について学んだ後は、地元漁協の指導の下、今が旬であるウニの殻剥き体験を行いました。

剥きたてのウニは、お昼ご飯と一緒にいただきました。

3 最後は再び山へ

海へ流れ着いた水はやがて雲になり、再び山へと戻っていきます。

水を蓄える森は「緑のダム」と呼ばれること、森も伐採を通して整備されていることを学びました。

実際に間伐材で丸太切り体験を行いました。



4 環境公共について

最後に、農林水産業の生産基盤や農山漁村の生活環境の整備なども説明しながら、農林水産業を支えることが、地域の環境を守ることに繋がっていることを紹介しました。

アンケートには「環境公共についてもっと知りたい」という意見もありました。一日がかりの体験イベントでしたが、親子で自然を体験しつつ、学習することが出来ました。